

「香港中文大学サマープログラム参加報告書」

京都大学経営管理大学院 1年 岡田 昇祥

香港中文大学での授業環境がどのようなものであったかを報告します。

香港中文大学は深センと接する新界地区の山奥に立地し、山一つがキャンパスとなっており、学内はスクールバスが運行しています。私たちの宿舎は大学内にあり、宿舎から麓の大学駅までは約 20 分程度、私の授業が行われた教室は歩いて 10 分程度でしたが、バスで教室まで向かう生徒もいました。

授業のコースは、4 つのレベル分けとなっており、私は一番上のコースを選びました。クラスメイトは日本人 6、韓国人 2、の計 8 名。例年、全てのコース共通して日本人が多いとのこと。午前と午後両方授業があり、午前中はリーディング中心に、午後は午前中のリーディングに出てきた新出語句と文法を運用する会話中心の授業でした。テキストの内容は、中国人の人間関係の構築方法 (ex. 親しい人への接し方と距離がある人との区別) や、中国人の謙遜文化、面子への拘り等が盛り込まれた、興味深い構成となっており、各テーマに沿って中国語で自分の意見を述べる練習をするのでハードではありますが、非常に力がつく面白い授業でした。

留学前は、中国語を勉強するのであれば、中国本土で勉強するのが効果的であると思っていましたが、先生は北京出身で綺麗な発音の授業が行われ、授業の質も高く、授業面での中国語の環境は良かったと思います。私は、短期留学では中国本土の北京大学と上海にある復旦大学にも行ったことがありますが、午前中だけのプログラムで、本プログラムのような午後の授業はなく、授業の質も本プログラムの方が高かったです。しかし、街中で話されている言語は広東語であり、授業以外での語学力を向上させる場面は残念ながら少なかったです。

私は中国留学を学部時代に 1 年間経験し、その後、語学力という面では伸び悩みの時期が長く続いていました。本プログラムで中国語に再度向き合った結果、授業で自分の意見を述べる練習をした成果もあり、短文ではなく長文で話せる力が身につき、中国語能力が向上したと実感できました。それは、香港中文大学の授業プログラムの質が高かったからだと思います。私以外のコースを選択した京大のメンバーも授業の内容が良かったとのこと。中国語を勉強するのは、もちろん香港よりも中国本土が良いと思われるかもしれませんが、香港中文大学の授業はとても充実していたので、留学を考えている皆さんも、中国語留学の選択肢の一つに入れてみられては如何でしょうか。